

# 南山城村橋梁長寿命化修繕計画

## 長寿命化修繕計画の背景と目的

### 1) 背景

南山城村が管理する橋梁は、平成30年度現在で73橋架設されている。  
このうち、架設年度の明らかな橋梁の内、高齢といわれる建設後50年を経過する橋梁は、全体の29%を占めており、さらに20年度には、71%程度に増加する。  
このような背景から、今後、増大が見込まれる橋梁の修繕及び架替えに要する費用に対し、可能な限りのコスト削減への取組みが必要である。



### 2) 目的

より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくためには、従来の損傷が大きくなってから対処する**対症療法型**から、損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う**予防保全型**への転換をはかり、橋梁の寿命を延ばす必要がある。

本村では、将来的な財源低減および道路交通の安全性を確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。

## 長寿命化修繕計画による効果

### 1) 健全度の向上

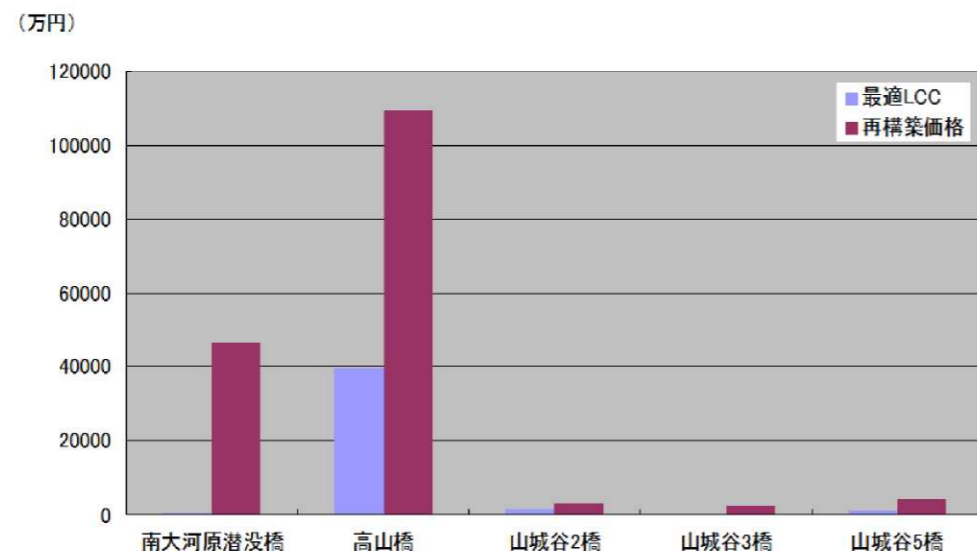
定期点検を実施し、適切な修繕計画を進めることにより、橋梁の安全性が確保されると共に、道路ネットワークの信頼性が確保できる。

### 2) 予算の平準化

修繕に必要な費用を予測し、投資額を平準化した修繕計画を策定することにより、厳しい予算制約下で計画的な修繕が可能となる。

### 3) コストの削減

予防保全を実施した長寿命化計画を実施することにより、従来の事後保全的な維持管理と比較し、約12億円のコスト削減が見込まれる。



## 長寿命化修繕計画の方針

### 健全度の把握の基本的な方針

定期点検(概略点検)や日常的な維持管理によって得られた結果に基づき、**橋梁の損傷を早期に発見する**とともに健全度を把握する。

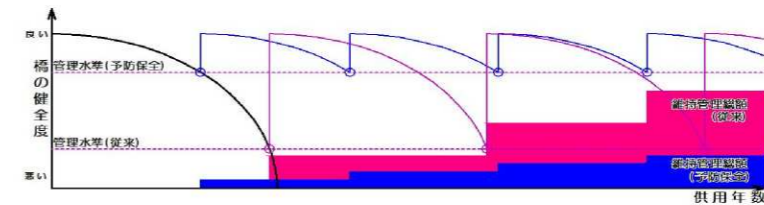
#### 健全度の区分

区分	定義
I 健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態。
II 予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

『出展:道路橋定期点検要領 平成26年6月』

### 予防的な対策

従来の対症療法型から、計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、橋梁の寿命を100年間とすることを目標とし損傷を早期発見し、**より少ない費用で適切な対策**を実施する。



### 優先度

長寿命化修繕計画の優先順位は、以下の重要性を考慮して決定する。

- 定期点検の健全性の診断に基づき、健全性の低い(劣化している)橋梁を優先。
- 修繕の困難性を考慮し、橋長の長いものを優先。

### PDCAサイクルの実施

計画は今後も継続的に行い、PDCAサイクルを実施し、効率的・効果的な維持管理を行う。  
PCDAとは、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)の四つの段階を繰り返すことによって、計画を改善・効率化にすること。



### 計画策定部署

南山城村役場 建設水道課 TEL 0743-93-0106  
FAX 0743-93-3031